

デモクラシト

民主主義学生同盟
大阪市大文部棧便紙

形式主義的「自治会再建」の「ゼゼヤキ」と
訛りし、5.29→6月反安保全日本ストリ
11.15→23全市大統ニストを開い抜け。
= 大衆的、戦目的再生をとみちとうにつく。
△ 民青「全学連」が持た議批判△

□はじめに

全日本学生議會△

我々に向わてることは、全人民的課題としてある、
そして結果によつては、これらの日本人民のあり方を大
きく左右する安保一油縄三事の如何なる方針でもつて、
如何なるセカと連帶して居り、そして我々市大にありて
その様な即りを如何に定着させるのかを明らかにするこ
とである。ところが、かかる実を一切隠さず、嘗ての
諸要求の件を情せとの周裏を抜きに羅列し、しかも犯罪
的性こととして、まさに我々が今行なわねばならぬ「安
保一油縄三事」に対置する形で提出している一部諸君が存
在する。彼ら民青「全支諸君が、昨日の大学三事の最終
的局面上にあつて全口若学園において右翼系体育会と「女
子」してまでも、三事の收拾に奔走していた時に語つて
いたのは、「あの自治会再建」なのである。またもや、彼
らは、「自治会再建」なのである。またもや、彼らは、
「自若会再建」という大義名分の下に、安保一油縄三事の
三事破壊運動を行なおうとしているのである。一二に二
と、貴重な時間を使つて、誤される民青「全支諸君の批
判」を行なう理由がある。ある。

戦目的の自若会の再建の現実
性は、運動の全學的定着化→
活動家の組織的定着化の中
に、一そろ在り可る

我々が自治会再建を語る時、その立脚点とは、55年の
全国連九回大会によりて定式化されたとしての學生運
動に基づく自若会運動院である。その因縁とは、今日の

的見方ではなく、その出資元から見ても、又卒業後におい
ても、今日の巨大家族から何らかの形で攻撃される立場
にあり、それ故として独立に対する反独立の立場に立ち
得ると言つものであり、それ故我々の運動院は、まさにそ
の可能性を如何に現実化せるのかと言つものである。そ
れ故に、そ今日の情勢を科学的に分析する中で、それを考
え、諸君に大胆に提起する」とであり、とりわけ反動「デ
オロギー」の真だら中にある今日、それを担つ中核部隊
の定着化が要請されるのである。かかる複数の不充分な故
に、この前の自若会が「左」・右からの攻撃にもちくち崩
壊したのであり、市大もその例にもれないのである。
以上を踏まえるなら、我々が嘗ての眞の意味で自治会再
建を主導することは、まさに現時既において最も要請され
てゐる安保一油縄三事を最大限囲う中で、その定着化を企
むことである。

△ 政治的ひき回すと大衆追
△ 隨主義の所産△ 民青主張の
△ 自若会再建の如何非性を糾弾
△ する

こうで、現行民青諸君がさきにやりやき回つて
自若会再建とは一体如何なる内容のものだろう。そ
は隣の所大の地にありとも、現在最も要請的要請と
して我々に向われてゐる安保一油縄三事を如何にヨウのな
言ふ事を全く用ひなければ、何が何かも「見事な言葉」を
こじめずに、「再建」と言う事実を見てしめたるに、隣の言
はりつてこゝに言つ事実を見てしめたるに、隣の言
つ首を角突の具体的内閣とは、民青がその計算林にさき
に付けておる。ある。隣の言葉をしてしめたるに、隣の言

沖縄戦にしてこそ使つ一木の民族主義的・製粉主導的方
向に自若なをひきまわすというもののなりである。ア。

我々は、かかる民情・全支諸島の政局的ひきまわしと情
勢との関連板きの大衆に受け入れられ易い課題だからそれ
を提起するという大衆追随主義の所産である「自治会重建」
の犯罪性を徹底的にバクロすると共に、一方が広はんに存
在して、その学長の斗争エネルギーを分取へせ、斗争の元先
を鉗らせ政府独占の反効的政策と何ら首効く対決しない
ものであるが故に、断乎として糾弾しなければならない。
我々の現在の斗争の環は、明確—安保—沖縄であり、

5.29 → 6.15—23連続ストレーハーの市大の地において最も戦
斗的に斗、抜くことである。そして、我が現在、自治会重
建の問題を語るところならば、それは、かかる6月安保事
の島嶼の中で、市々會をもつて成り得るの保障をあちどるこ
と、一貫である。